

## 平成29年度 行政評価事業別シート

	実計対象 <input type="checkbox"/>	評価対象 <input checked="" type="checkbox"/>	新規 <input type="checkbox"/>	完了事業 <input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業 <input type="checkbox"/>	担当者	北澤知子
	全体計画			経費区分	-	内線	3645
事務事業名	4299 親善交流事業						
所 属	300200 教育委員会事務局・子ども課						
施 策	07023800 多様な活動主体の参画による地域社会づくりの推進						
予算 科目	会計	01 一般会計					
	科目	100606 教育費・社会教育費・児童青少年総合対策費					
	事業	020000 親善交流事業					
事業目的				事業概要・効果			
姉妹都市三浦市の児童・生徒との交流を通して、須坂の良さを再認識するとともに、姉妹都市の文化や生活への理解を深め、交流の中から新しい友人をつくり、豊かな心を育む。				姉妹都市神奈川県三浦市の児童・生徒がお互い交互に訪問し交流する。 民泊は、はじめて知らない家庭に泊まらせていただく機会、経験した児童・生徒、受け入れた家庭にとって貴重な経験となる。 中学生は班の責任者として、責任感、積極性を身につけ、日常の学校生活や生徒会活動の中でも活かす。			

**PLAN-DO**

**年度実績及び予定**

平成27年度 実績	平成28年度 実績
須坂市19名、三浦市20名の児童生徒がお互いの市にて交流を図った。 三浦市訪問 7月29日～31日 須坂市受入 8月7日～9日	須坂市及び三浦市の児童生徒がお互いの市にて交流を図った。 三浦市訪問 7月27日～29日 須坂市受入 8月5日～7日
平成29年度 予定	平成30年度 予定
須坂市及び三浦市の児童生徒がお互いの市にて交流を図る。 三浦市訪問 7月29日～31日 須坂市受入 8月4日～6日	
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指標名	無し					
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成28年度 決 算	平成29年度 予 算
事業費		874	1,226
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		874	1,226
人員数(人)	正規職員	0.3	0.3
	嘱託職員	0.2	0.2
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	2,165.7	2,165.7
	嘱託職員	551.0	551.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	2,716.7	2,716.7
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		3,590.7	3,942.7

(単位：千円)

平成28年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	82	民泊協力謝礼
11節 需用費	291	消耗品費、現地食事代、資料印刷費
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	501	施設利用料およびバス借上料322、引率者旅費140、役務費（保険料等）39

(単位：千円)

平成29年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	95	民泊協力謝礼
11節 需用費	447	消耗品費、現地食事代、資料印刷費
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	684	施設利用料およびバス借上料495、引率者旅費140、役務費（保険料等）49

## CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか</li> <li>行政内部の管理運営上必要な事業であるか</li> <li>市が主体となり実施すべき事業か</li> <li>法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか</li> <li>目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか</li> </ul>	やや低い
評価コメント	<p>法的根拠はない。 姉妹都市交流の主要事業として位置づけられている。</p>	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の成果は上がっているか</li> <li>目標に対する達成度は十分か</li> <li>市民生活上の課題解決に貢献しているか</li> <li>行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか</li> <li>事業の目的が達成できるような事業内容になっているか</li> </ul>	普通
評価コメント	<p>参加した子どもたちの社会性や人間形成の一助となっている。 また、参加者同士や民泊先での交流の中で互いの市の良いところなどを紹介することから、須坂の良さを再認識することにもつながっている。</p>	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか</li> <li>効率性向上に努めているか</li> <li>使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか</li> </ul>	やや悪化
評価コメント	<p>一部の児童生徒のために公的資金を投入することは公平性に欠ける。 今後、宿泊施設の閉鎖、民営化などにより費用の増大が予想される。</p>	

## 振り返り（決算年度の取組み課題）

受益者負担を求めれば参加者の減少が見込まれるうえ、民泊というプログラムは、この事業に家庭も関わっていただくという目的なのだが、受入困難な状況が続いている。また、積極的に参加を希望する児童生徒はほとんどいないと聞いている。しかし、民泊受入れすることを条件に参加者を募るなど、次年度以降で実践・検討が必要。

## ACTION

## 1次評価

## 2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
事業開始から40年以上が経過し、宿泊施設や民泊の受け入れ、交流事業のあり方等も含め、再度検討する必要がある		今年度は三浦市訪問等について希望者を募り、13名の小学生の参加を得て、自発的でより実りある交流ができたと考える。	

## 外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	